

6月23日「沖縄慰霊の日」、沖縄県糸満市で行われた沖縄全戦没者追悼式で、浦添市立港川中学校3年の相良倫子さんが朗読した自作の詩を紹介し

「生きる」 相良倫子

私は、生きている。マントルの熱を伝える大地を踏みしめ、心地よい湿気を孕(はら)んだ風を全身に受け、草の匂いを鼻孔に感じ、遠くから聞こえてくる潮騒に耳を傾けて。

私は今、生きている。

私の生きるこの島は、何と美しい島だろう。青く輝く海、岩に打ち寄せしぶきを上げて光る波、山羊の嘶(いな)なき、小川のせせらぎ、畑に続く小道、萌え出づる山の緑、優しい三線の響き、照りつける太陽の光。



私はなんと美しい島に、生まれ育ったのだから。

ありったけの私の感覚器で、感受性で、島を感じる。心がじわりと熱くなる。

私はこの瞬間を、生きている。

この瞬間の素晴らしさがこの瞬間の愛おしさが今と言う安らぎとなり私の中に広がりゆく。たまらなく込み上げるこの気持ちをどう表現しよう。大切な今よかけがえのない今よ

私の生きる、この今よ。

七十三年前、私の愛する島が、死の島と化したあの日。小鳥のさえずりは、恐怖の悲鳴と変わった。優しく響く三線は、爆撃の轟に消えた。青く広がる大空は、鉄の雨に見えなくなった。草の匂いは死臭で濁り、光り輝いていた海の水面(みなも)は、戦艦で埋め尽くされた。火炎放射器から吹き出す炎、幼子の泣き声、燃えつくされた民家、火薬の匂い。着弾に揺れる大地。血に染まった海。魑魅魍魎の如く、姿を変えた人々。阿鼻叫喚の壮絶な戦いの記憶。



みんな、生きていたのだ。私と何も変わらない、懸命に生きる命だったのだ。彼らの人生を、それぞれの未来を。疑うことなく、思い描いていたんだ。家族がいて、仲間がいて、恋人がいた。仕事があった。生きがいがあった。日々の小さな幸せを喜んだ。手をとり合って生きてきた、私と同じ、人間だった。それなのに。壊された。奪われた。生きた時代が違う。ただ、それだけで。

立ち止まり、想いをめぐらす。73年目の夏がまたやって来ます。

無事(むこ)の命を。あたり前に生きていた、あの日々を。

摩文仁の丘。眼下に広がる穏やかな海。悲しくて、忘れることのできない、この島の全て。私は手を強く握り、誓う。奪われた命に想いを馳せて、心から、誓う。

私が生きている限り、こんなにもたくさんの命を犠牲にした戦争を、絶対に許さないことを。もう二度と過去を未来にしないこと。全ての人間が、国境を越え、人種を越え、宗教を越え、あらゆる利害を越えて、平和である世界を目指すこと。生きる事、命を大切にできることを、誰からも侵されない世界を創ること。平和を創造する努力を、厭わないことを。

あなたも、感じるだろう。この島の美しさを。あなたも、知っているだろう。この島の悲しみを。そして、あなたも、私と同じこの瞬間(とき)と一緒に生きているのだ。



今と一緒に、生きているのだ。

だから、きっとわかるはずなんだ。戦争の無意味さを。本当の平和を。頭じゃなくて、その心で。戦力という愚かな力を持つことで、得られる平和など、本当は無いことを。平和とは、あたり前に生きること。その命を精一杯輝かせて生きることだということを。

私は、今を生きている。みんなと一緒に。そして、これからも生きていく。一日一日を大切に。平和を想って。平和を祈って。なぜなら、未来は、この瞬間の延長線上にあるからだ。つまり、未来は、今なんだ。

大好きな、私の島。誇り高き、みんなの島。そして、この島に生きる、すべての命。私と共に今を生きる、私の友。私の家族。

これからも、共に生きてゆこう。この青に囲まれた美しい故郷から。真の平和を発進しよう。一人一人が立ち上がり、みんなで未来を歩いていこう。

摩文仁の丘の風に吹かれ、私の命が鳴っている。過去と現在、未来の共鳴。鎮魂歌よ届け。悲しみの過去に。命よ響け。生きゆく未来に。私は今を、生きていく。



夏はメロン、冬はミカン。学校の職員玄関にメロンの箱が沢山積まれていました。箱の中のメロンは、なんと計40個。同僚とメロンを持って記念撮影を20センチメートル程。持ってみると身がぎっしりと詰まっております、食べにくいながらも、口の中いっぱい広がると、果汁を想像できしてしまう程です。甘いものを食べると、一日の疲れが解消します。今すぐ食べたいところですが、暑い季節です。ちょっとだけ食べるのを我慢して、冷蔵庫で冷やしてから食べるのもよいかなと思っております。(手稲養護 細谷拓樹)

今年もいまだに全教共済メロンキャンペーン



2018道高教組札幌支部教育研究集会 9月2日(日)13:00~に決定! 全体講演は山形定さん(北海道大学) 講演「ニセコ高校のエネルギー問題授業で何があったのか?!」 ~教育の自由・中立性を考える~

ニセコ高校が昨年外部講師を招いて行ったエネルギー問題に関する授業で、北海道経済産業局が講師の山形定さんに原子力発電の問題点を指摘する内容を変更するように求めていたことが発覚しました。この事件は、前川喜平前文科省事務次官の授業に対する政治家・文科省の介入・調査同様教育への不当介入という問題にとどまらず、研究職の山形さんへの学問の自由の侵害でもあります。山形さんの授業がどのような内容で、どのように介入が行われたのか。事実を学び、改めて教育の自由・教育の中立性について考える機会にしたいと思います。(詳細は別途お知らせします)

札幌支部7月から11月の「教研」・学習会一覧

- 7月30日(水) 10:00~ 学校・職場づくり学習会 「改訂学習指導要領を乗り越える教育実践」 ~生徒が中心の授業づくりと学校づくり~ 小池由美子さん(埼玉県立川口北高校教諭)
●8月25日(土) 10:00~ 8月分会代表者会議学習会 学校づくり なるほどシリーズNo19の道端剛樹実践に学ぶ 「改訂学習指導要領(高校)②~主体的・対話的で深い学び~」
●9月2日(日) 13:00~ 札幌支部教育研究集会 「ニセコ高校エネルギー問題授業で何があったか」 教科等分科会 15:30~17:00
●10月14日(日) 10:30~ さっぽろく子育て・教育市民フェスティバル 会場:エルプラザ男女共同参画センター テーマ:「笑顔輝く子どもと大人の未来」 ~かかわりのわずらわしさを乗り越えて~
●11月3日(土)~4日(日) 合同教育研究全道集会



夏は「教研」の味です! 安倍政権や文科省は、「高大接続改革」・「高校生のための学びの基礎診断」導入を打ち出しつつ、高校学習指導要領改訂を終え、改訂学習指導要領体制の全容を確立させつつあります。教育行政と教育産業による教育支配体制が強化されるなか「人格の完成」が後ろへ追いやられて、(人的資本育成が大手を振って) まかり通り、その目標達成のため学習内容だけでなく学習方法を縛り付けてきた。高教組札幌支部はこれらの目論見を乗り越えるためには、私たち自身がしっかりと学習する必要性を感じています。教育実践の中に「人間」を位置づけ直すために、夏から秋にかけては教育研究活動を活性化させます。皆さん一緒に「教研」しませんか。